

# 旧沼津城大手櫓（やぐら）門の平面パネル展示での再現

令和6年（2024）11月24日「沼津に城があったころ」再現実行委員会



## 実施時期・会場と展示の背景・結果

◎実施時期=令和5年11月17日(金)～19日(日)

◎会場=沼津市大手町・中央公園内

◎展示の背景・結果

沼津市大手町一帯に城が存在したことは、沼津市史研究や各博物館における展示等により周知されると共に、学校教育での郷土史学習も行なわれてきた。

しかし、市民団体等が行う歴史学習イベントや、観光客へのガイドに際して、私たちが感じるのは、「沼津は城下町だったのか」というような歴史認識の人が多く、実際に城跡がないことが影響していると思われます。

そこで令和4年には中央公園の東端に実在した「二重櫓」を平面パネルで再現したところ、小和田哲男先生が来場されるなど大きな反響がありました。

今回は中央公園から南西近くに実在した「大手櫓門」を再現したところ、昨年に増して多くの来場者があり、アンケートにも多くの回答がありました。

①中央公園での観覧者数=約3,000人(昨年は約2,000人)

②同アンケート回収数=約300件(昨年は70件)

③同今後の継続を望む声=93%(実数280件)



旧沼津城大手櫓門パネル展示最終日の令和5年（2024）11月19日（日）午後、中央公園の展示の前で。左から2人目が講談師の田辺鶴遊師匠で、この後、市立図書館で展示に関連する創作講談「江原素六伝」を演じた。

その中で師匠は約70人の参加者に対して、江原先生は沼津城本丸に当たる今日の中央公園を眺めて、特にその名称が昔の面影を残していないことをどのように思うだろうかと問いかけた。

終了後に主催者が回収したアンケート調査の結果では、参加者の8割を超える57人から回答が得られ、中央公園の名称変更が必要と考える人は52人に上った。



旧沼津城二重櫓パネル展示初日の令和4年（2023）8月26日（金）午後、中世日本史及び城郭史研究の第一人者で静岡大学名誉教授の小和田哲男先生が、講演のため沼津来訪の際に中央公園の展示会場に立ち寄られた。写真は静岡新聞社提供による、小和田先生（左）と語る実行委員会の渡邊美和代表。

小和田先生は後日、「今回の旧沼津城二重櫓を再現したパネル展示により、『沼津にもすごい城があったのだ』と認識を新たにできたことは大きな成果だと思います」という言葉で始まる長文のコメントを実行委員会あてに提供していただいた。

## 展示の成果と今後の展望

令和5年度の展示実行体制は、前年に続いて沼津工業高校同窓会と沼津郷土史研究談話会(略称・沼津史談会)が実行委員会を構成し、引き続き大手町町内会や商店街の協力を得た。

また新たに、沼津観光ボランティアガイド有志の皆様に来場者への説明やアンケートへの協力をいただいた。

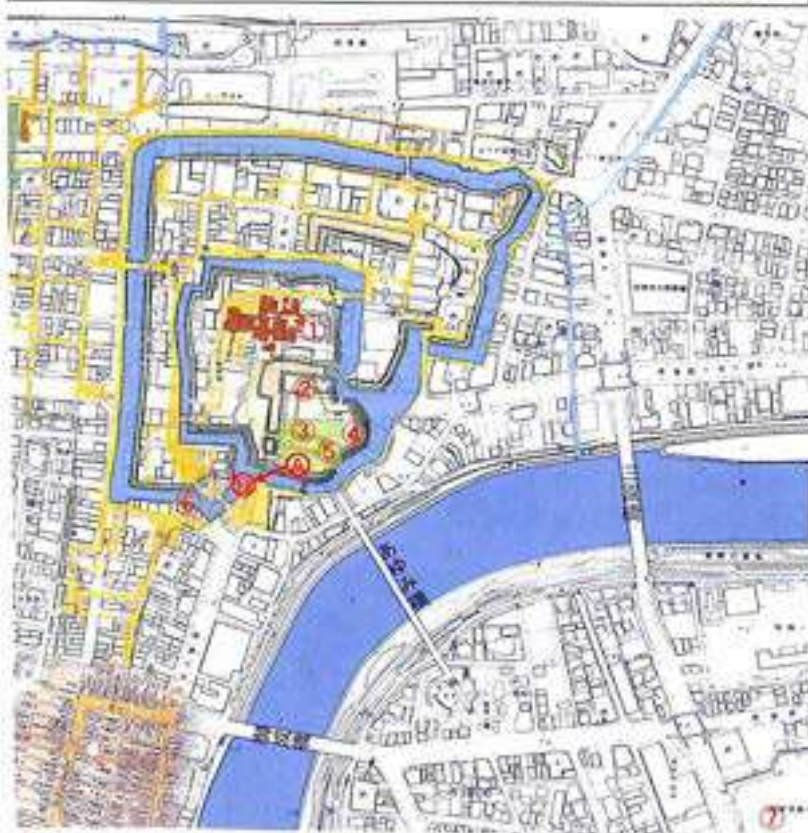
しかし、沼工同窓会と沼津史談会の役員を兼ねてきた、実行委員会の渡邊美和代表が病気により本年8月8日に急逝されたため、展示の継続は困難となった。

一方、入院中の渡邊美和氏不在の中で、6月23日に開催した沼津史談会の総会記念シンポジウムにおいて得られた成果に沿い、新たな事業展開方法として「沼津まちなか歴史MAP」を改定し、これを活用して中央公園内に(仮称)「歴史と文化の情報案内板」(下)を設置するための準備を進めている。

改定に当たっては、今まで築かれた各団体との関係を生かすと共に、令和7年1月からは市民に改定作業への参加を呼びかけていく予定である。

このような取組を通じて、市民や来街者に中央公園が有する「歴史と文化を生かしたまちづくり」の可能性を認識してもらうことにより、公園名称の見直し実現により、中心市街地活性化への推進力となることを期待するところです。

### 沼津まちなか歴史MAP (部分) ◎沼津城絵図と沼津市基本図の中心市街地部分との重ね図



- 沼津城二の丸御殿跡→明治初期、沼津兵学校校舎として使用された。
- 天守台跡→時期によっては三重櫓があった可能性あり。
- 現在の中央公園(薄緑色の部分全体)
- 二重櫓跡→令和4年8月、芝生広場においてパネル展示を実施した。
- 沼津兵学校寄宿寮跡→約20室、数十人収容。(位置は推定)
- 大手門跡→静岡銀行沼津支店前の交差点の西北付近に旧東海道に面して大手門があった。
- 新時代のスポーツ文化ゾーン 令和5年3月開館予定の新しい市民体育館を核とする活動の場として都市の拠点となることが期待される。
- 中央公園の芝生広場→AからBに向かう矢印は、見通しがきくようになったことを示す。
- 遊楽館ビル→入口に市の文化財免状調査で確認された大手門の北端部分が示されている。

